

普及情報

特別栽培による酒米山田錦の差別化

地域の現状

多可郡多可町中区（旧中町）は、酒米山田錦の母品種である山田穂の発見地であり、水稲作付面積の約6割を山田錦が占めている。多可町合併後も、「日本酒で乾杯の町宣言」を行うなど、山田錦は重要な位置を占めている。しかし、近年の日本酒消費は、年間5%程度減少しており、酒米も生産調整されている。

有機質施用減農薬栽培の取組

1960年から石川県の酒造会社と契約栽培を続けている坂本集落では、1996年に酒造会社より、化学肥料に頼る栽培法から脱却し、土づくりと有機質肥料中心の栽培法に取り組むように要望された。普及センターでは、1998～1999年に中町有機の里づくり事業を活用してたい肥散布面積を増やすとともに、有機質肥料栽培試作ほを設置し、たい肥+有機質肥料栽培体系を実証した。2002年産から山田錦の生産調整が始まり、生き残りのために酒造会社の望む高品質米生産を目指し、坂本集落をモデルに集落外への拡大を進めた。

特別栽培の取組

化学肥料と農薬を5割削減する改正特別栽培農産物表示ガイドラインの2004年4月1日施行を契機に、坂本集落ではいち早く特別栽培米に移行した。これは同年3月に中町山田錦部会が石川県の酒造会社で研修を行った際に、段階的に特別栽培を拡大してほしいとの強い要望を受けたものである。そして、特別栽培山田錦の拡大は、部会において最重点活動事項となった。

そこで、坂本集落以外への拡大に向けて、特別栽培実証展示ほ15か所を設置し、栽培技術の普及を図った。農協は温湯消毒機を導入し、温湯消毒済み種子を配布するとともに、温湯消毒種子による苗の販売も開始した。

取組の拡大

2004年から始まった特別栽培の取組により、2005年産では出荷25,392袋の内、特別栽培7,292袋と28.7%に達した。しかし、酒造会社とは2006年産で

10,000袋の出荷を約束していたことから、更なる拡大に向け、各集落で栽培面積の6割以上を特別栽培とする努力目標が部会内で確認された。この結果、2006年産は、出荷量の66.1%となる、15,534袋が特別栽培米で出荷され、石川県の酒造会社に出荷する米はすべて特別栽培米となった。また、山田錦全体を特別栽培とする集落が、2005年の1集落から2006年は5集落に増え、集落内での作付けも団地化されるようになった。

エコファーマーの認定も、2005年までは、認定農業者を中心に9戸であったが、農地・水・環境向上対策の営農活動に取り組む集落が多く、部会活動の中でもエコファーマー取得に取り組み、2007年1月・3月申請で260戸に拡大した。さらに、特別栽培から一歩進めた、有機栽培山田錦の要望もあり、2006年には、認定農業者を中心に、1.5haでJAS有機認証を目指す栽培が始まり、2007年には、3.4haまで拡大した。

今後の課題

これまで特別栽培米は、倒さない山田錦栽培を目標としていた。このため、収量が低い、千粒重が軽い等の問題があった。本年からは、施肥量や施肥時期の改善による収量向上や品質の充実に取り組んでいる。

農林水産省ガイドラインによる表示			
特別栽培米			
化学合成農薬	当地比0割減(0割削減)	化学肥料	当地比7割減(7割削減)
総生産者	農事組合法人 坂本農事組合法	所在地	兵庫県多可郡多可町中区坂本512-5
住所	兵庫県多可郡多可町中区坂本512-5	連絡先	TEL 0795-32-1941
総生産者	ふのり農業協同組合 多可営農経済センター	所在地	兵庫県多可郡多可町中区安楽73-1
住所	兵庫県多可郡多可町中区安楽73-1	連絡先	TEL 0795-32-2205

化学合成資材の使用状況				
使用資材名	[栽培様式1]		[栽培様式2]	
	使用	削減	使用	削減
窒素	○	○	○	○
リン	○	○	○	○
カリ	○	○	○	○
硫酸	○	○	○	○
硝酸	○	○	○	○
有機質	○	○	○	○
殺菌剤	○	○	○	○
殺虫剤	○	○	○	○
殺草剤	○	○	○	○
植物生長調節剤	○	○	○	○
その他	○	○	○	○
合計	○	○	○	○

○：使用された農薬の量を上記の欄の比率が適合しています。

図1 特別栽培米ラベル



図2 特別栽培ほ場

猪口 覚 (西脇農業改良普及センター)
(問い合わせ先 電話：0795-22-4743)